

蒙談



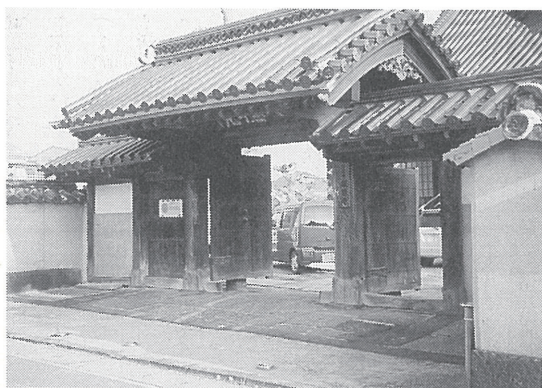
第 32 号

蒙 談 会 発 行

明治の元勳 伊藤博文公の

「御位牌とご先祖のお墓」が顕現！

山口ふるさと大学 柴田 眼治



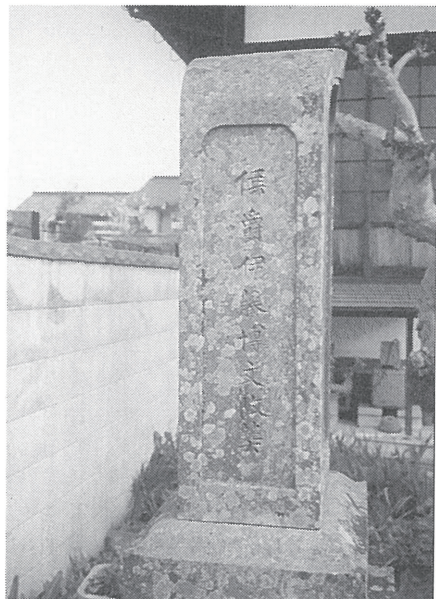
浄土宗瑞雲山報恩寺の山門

平成十三年三月二十一日、春の彼岸会が萩市津守町の浄土宗報恩寺で厳執された。その際、伊藤博文自筆のご先祖の合葬墓とご自身の御位牌が確認発見された。当寺は伊藤家の菩提寺であったのである。但し、五年前までは



本堂南西の境内地に
伊藤侯爵が改葬された伊藤家のお墓

墓石右側面の伊藤公の直筆の
改葬碑文（達筆である）



笠山の石で造られている。外玉垣
が失われて、左に傾き、敷石が壊
れた状態である。大正時代の写真
にはアーチ状の門柱もあった。

伊藤家ゆかりのお方が時々、墓参されていたが、近年
はお参りもなく、お寺では無縁墓として処理しようか
とのお話だった。
以上の件についてご住職の難波俊明師とご母堂から
詳しく経緯を伺うことが出来た。さらに驚いたこと

明治三十二年十二月に西の墓地にあった伊藤家
のお墓の大半は東京白金の瑞聖寺へ移された。
その際、ご両親と祖父母のお墓は残された。墓
石左側に改葬日は明治三十二年十二月と刻まれ
ている。伊藤博文公直筆。



ハルピンで他界された年月日が尊牌の裏に墨書してある。



文忠院殿博尊古林春畝大居士とあり、ご住職のお話では院殿号はハルピンで没後当時の方丈がつけられた。それ以下は伊藤公のお考えが反映された授戒名だそうだ。

に伊藤公は廃仏棄釈運動と神道推進を進めた要人の一人であつたが、ご自身の仏弟子としての素木御位牌が存在したのである。

このことは直ちにご当主の妹君で博文公の曾孫である文子様に連絡された。文子様は出雲大社千家達彦管長のご令室であられる。急ぎお電話申し上げたところこのお墓のことや御位牌の存在は聞かされていなかった由であつた。千家達彦管長も驚かれて伊藤家のご当主、博雅様に連絡された。

前述のようにご当主、伊藤博雅様は文子様の兄君である。千家管長のお話によれば「伊藤公は没後、元勲として国葬されたが、神道論者でもあつたので出雲大社千家家の東京分祀長が葬祭を奉祀した。御霊舎は東京の大井町の別邸にいとまされた。現在は東京の山口県人会である防長倶楽部の林義郎代議士が中心になって管理されている。」とのことであつた。

ご当主博雅様のお話では「萩の報恩寺が伊藤家の菩提寺であることはよく承知していましたが、曾祖父が当

家の墓を全て東京の瑞聖寺に移したと思っていました。まさか、お墓や位牌があつたとは知りませんでした。」とのことだった。その後のお話では大磯の伊藤家の本邸に位牌について書きつけがある様なので探していると申された。いづれにしても伊藤家にとって
は一大慶事と拝察する。

墓所のある東京品川区芝白金の「瑞聖寺」のご住職のお話によれば当寺は黄檗宗の単立寺院で長州藩公や薩摩公の江戸における菩提寺であつた由

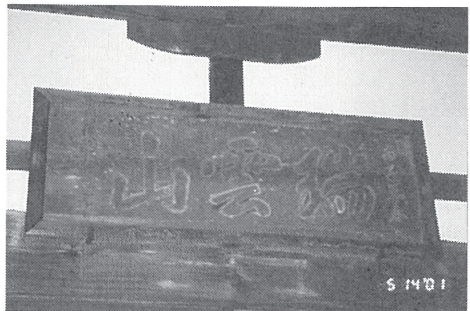
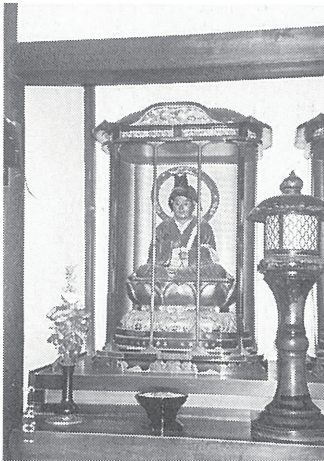


東光寺から報恩寺へ贈られた
灯籠石の一部

心徳院時代の扁額

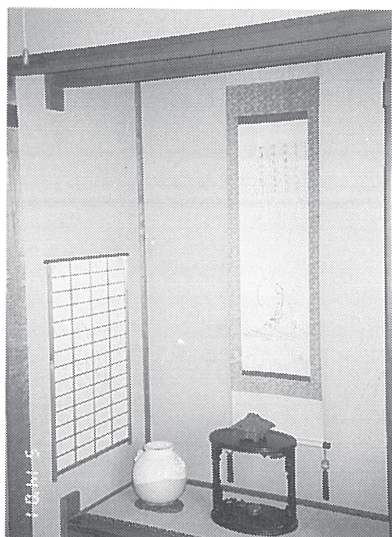


宗祖法然上人像



瑞雲山報恩寺知恩院派の額

「八一は地天泰の意」



毛利公姫君ご休息の間

である。三代目の瑞聖寺方丈が毛利公に請われて萩東光寺の住職になられたそうだと。

報恩寺は約四八〇年前に創建された、河原町に在った「心徳院」を後に現在地に移築したそうである。

歴代住職は久留米の善導寺で修業された浄土門の高徳の僧侶が入山されていたそうだと。

「報恩寺」は毛利公の姫君が指月城から東光寺へご参詣される途次、休息される寺格の高い寺院であつた。ご本尊は阿弥陀如来である。久留米の「善導寺」は江戸期に鎮西大師明光上人という高僧が中国、四国、九州の浄土寺院を多数再興した諸寺のうちの中心的寺院である。

幕末、鴻城軍が駐屯した山口市荒高「長寿寺」も善導寺の鎮西大師とかかわり深い浄土宗のお寺で大内義興ゆかりの名刹であると中村隆芳ご住職のお話だった。長寿寺は初代山口縣令中野悟ご夫妻のお墓があることでも有名である。

さて報恩寺の本堂には「八一殿」という額が掛かつ



隠れ切支丹が礼拝していた「キリスト像」のイコン。萩・紫福や大森銀山などの信者が拝んでいたと想像される。

ているが、方丈様のお話では「地が天を支えるとの意で、釈尊や浄土教祖善導大師さらに宗祖法然上人が貧しき人々や困窮した人々のために身を挺して布施行に没頭された。その真義を表わした言葉で他の浄土門の寺院には無いとのことであった。

さらに驚いたことにご本尊の眞後ろの地下では隠れ

キシタンが秘かに「ホラショー」を称えていたという。その時に使っていた金属製の扉付の「キリスト像」のイコンがあった。地下室にはラテン語のような字があったそうだが現在は改造されてないという。

毛利の姫君の休憩寺であるので寺社奉行も迂闊には寺内に立ち入りはできなかったのかも知れない。つまり「隠れ切支丹の人々の駆けこみ寺」であったと思われる。

さて、伊藤公のお墓やお位牌の碑文は難波ご住職からのお手紙によれば次の通りである。

* * *

『先般より伊藤家墓地のことについてご配慮頂きありがとうございます。当方で調べましたことお知らせします。 報恩寺 難波 俊明

報恩寺墓地 伊藤家墓誌

(墓の正面) (墓の裏)

徳馨定馨居士

天保九年十月二十七日

水井直右衛門 子

花譽貞法大姉

(伊藤直右衛門 子とも記載)
天保二年三月十三日

感秋童子

水井直右衛門 娘
文政元年八月六日

持名軒本覺還入居士 萬延元年八月二日

水井直右衛門 子

棲心院還邦順誓大姉 慶応四年四月二十七日

伊藤十蔵 父

明治三十二年十二月 侯爵 伊藤博文 建之

過去帳には、伊藤十蔵以前は「水井」「伊藤」両方の姓が記載されています。

お墓に刻んである他に水井直右衛門関係で、過去帳に記載されているのは次の通りです。

周徳院殿芳馨貞温清琴大姉 明治三十六年十月七日

伊藤博文 母

文忠院殿博誉古林春畝大居士

明治四十二年十月二十六日

伊藤博文 本人

乗譽貞願大姉 文政七年正月二十三日

水井直右衛門 妻

愛染院智光恵雲善童女 明治二年八月七日

伊藤俊輔 娘』

* * *

方丈様のお話では伊藤家は水井家から養子を迎えようとしたが。果たせず、林家から養子を得た由。



報恩寺鐘楼

伊藤博文 略年譜

年号	西暦	年齢	事 項
天保一二	一八四一	一	九月二日（山口県）熊毛郡東荷村に生まれる。幼名は利助
嘉永二	一八四九	九	萩に移住する
安政元	一八五四	一四	伊藤姓を名乗る
〃三	一八五六	一六	長州藩の相州浦賀（現在の神奈川県）警備に出役する
〃四	一八五七	一七	松下村塾に入り吉田松陰に学ぶ
〃六	一八五九	一九	桂小五郎（木戸孝允）とともに江戸へ行く
万延元	一八六〇	二〇	このころより俊輔を名乗る
文久二	一八六二	二二	高杉晋作ら一二人と品川御殿山イギリス公使館焼き討ちに参加
〃三	一八六三	二三	井上馨らと英国へ留学
元治元	一八六四	二四	外国艦隊との応接を仰せ付けられ、講和につくす
〃二	一八六六	二六	高杉晋作らとともに挙兵、藩論を倒幕に統一
慶応二	一八六八	二八	梅子と結婚する
明治元	一八七〇	三〇	兵庫県知事となる
〃四	一八七二	三二	このころより博文を名乗る
〃六	一八七三	三三	条約改正のため岩倉具視特命遣外使節団の副使として欧米を歴訪
〃七	一八七四	三四	参謀兼工部卿になる
〃八	一八七五	三五	地方長官会議議長になる
〃一〇	一八七六	三六	法制局長官になる
〃一二	一八七八	三八	内務卿になる
〃一四	一八八〇	四〇	伯爵を授かる
〃一六	一八八二	四二	初代内閣総理大臣となる
〃一八	一八八四	四四	（第一次伊藤内閣―二年まで）
〃二〇	一八八六	四六	
〃二二	一八八八	四八	
〃二四	一八九〇	五〇	
〃二六	一八九二	五二	
〃二八	一八九四	五四	
〃三〇	一八九六	五六	
〃三二	一八九八	五八	
〃三三	一九〇〇	六〇	
〃三四	一九〇一	六一	
〃三六	一九〇三	六三	
〃三八	一九〇五	六五	
〃四〇	一九〇七	六七	
〃四二	一九〇九	六九	

年号	西暦	年齢	事 項
〃二一	一八八九	四八	憲法草案を脱稿、天皇に提出する
〃二二	一八九〇	四九	枢密院議長になる
〃二三	一八九一	五〇	憲法発布式典に参列する
〃二四	一八九二	五一	貴族院議長になる
〃二五	一八九三	五二	第二次伊藤内閣を組閣する（二九年まで）
〃二六	一八九四	五三	日英通商航海条約締結
〃二七	一八九五	五四	全権として日清講和条約（下関条約）を結ぶ
〃二八	一八九六	五五	侯爵を授かる
〃二九	一八九七	五六	第三次伊藤内閣を組閣
〃三〇	一八九八	五七	立憲政友会を創立、総裁となる
〃三一	一九〇〇	五九	第四次伊藤内閣を組閣する（三四年まで）
〃三二	一九〇一	六〇	米田エール大学より名誉博士号を贈られる
〃三三	一九〇二	六一	三度、枢密院議長となり、政友会総裁を辞任
〃三四	一九〇三	六二	第二次日韓協約を結ぶ
〃三五	一九〇四	六三	初代韓国統監になる
〃三六	一九〇五	六四	元仮皇居宮殿の御会食所建物（現在の明治神宮内の憲法記念館）を下賜される
〃三七	一九〇六	六五	公爵を授かる
〃三八	一九〇七	六六	一〇月二六日、満洲訪問の途上ハルビン駅頭で死去

「萩市教育委員会」制作パンフレットより

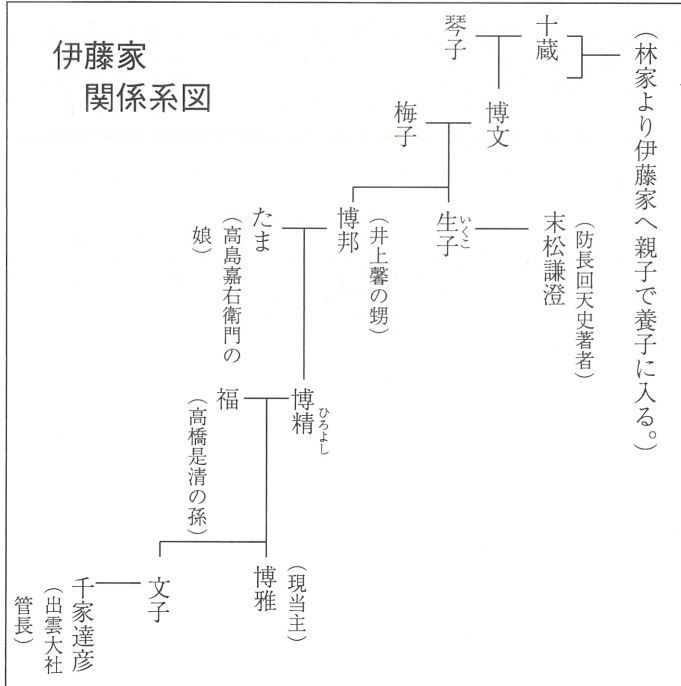
伊藤博文略歴

伊藤公は天保一二年（一八四二）九月二日、周防国熊毛郡東荷村（現在の山口県大和町）で、父十蔵、母琴子の長男として生まれました。幼名は利助（後に利輔）次に春輔（又は俊介、俊輔）と称せられ、後に博文と改名しました。嘉永二年（一八四九年）九歳の時に萩に移り、のちに松下村塾に入塾しています。その後は尊皇攘夷の志士として各地において活躍し、文久三年（一八六三）、井上馨らと英国留学しましたが、四カ国艦隊と長州藩の攘夷戦の講和のため急遽帰国し、講和を成立させました。

明治維新後は元年に兵庫県知事となり、その後は新政府の中枢で活躍。明治十八年（一八八五）に初代内閣総理大臣となり、以後、第四次にわたり内閣を組織しました。その他、初代の枢密院議長、貴族院議長、韓国統監を歴任し、明治四十二年（一九〇九）十月二

十六日満洲訪問の途次、ハルビン駅頭で死去しました。
（享年六九歳）

（萩市教育委員会）



【筆者注】

兵庫県知事の時に明治天皇の勅許を得て、南朝の忠臣楠正成公の湊川神社の境内地を整備された。そして水戸光圀が建立された「嗚呼忠臣楠子之墓」に無数の人々が「武士の鑑」として参詣して香華を手向け始めた。明の遺臣朱舜水の墓碑名の名文は有名である。幕末になると吉田松陰をはじめとした尊王の志士の精神的メッカとなった。

伊藤公記念館

「維新回天史」より 野村春畝著

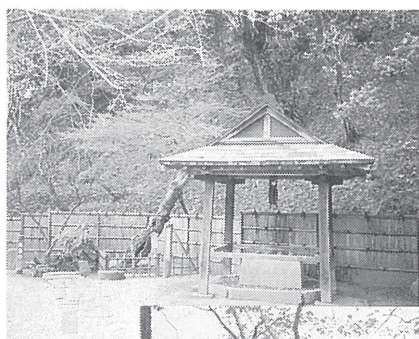


伊藤博文公

「大和町大字東荷にあり、故伊藤公爵設計に基き、神田技師その任に当り、時の県知事渡辺融氏、貴族院議員



伊藤公記念館、大和町東荷



ご生家

伊藤公産湯の井戸
(熊毛林家) 筆者撮

室田義文氏監督のもとに下関清水組これを請負い、明治四十二年工を起し、故公爵薨去後、同四十三年五月竣工したものである。背景に茶臼山があり山頂に伊藤公を祀る県社伊藤神社がある。その南麓に大勲位伊藤公爵産湯の井戸あり、側に熊毛郡民の建てた顕彰碑が建てられている。碑文は子爵杉孫七郎氏の撰文揮毫であって、附近に公の旧宅がある。」

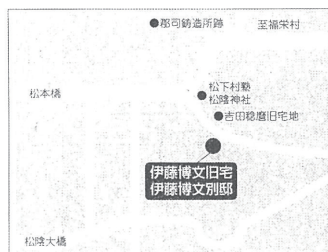
『伊藤神社は現在、林淡路之守ゆかりの近所の束荷神社に合祀されている。神社跡には山口県の生んだ彫像界の重鎮、河村賢祐先生作の伊藤公が「明治欽定憲法」を解纜している椅座した銅像が建立されている。』【筆者注】



旧館の側に新築された
伊藤公記念館



幼少時の伊藤公とご両親の
復元像



萩市教育委員会 TEL0838-25-3131
〒758-8555 萩市江向510 FAX0838-26-3561

朗報に接し、直ちに報恩寺を訪れた野村興兒萩市長

A black and white photograph of a large, seated Buddhist statue, likely a Bodhisattva, with a highly ornate, flame-patterned mandorla. The statue is flanked by two tall, slender incense burners. In the foreground, there are several stone tablets or plaques with inscriptions in Chinese characters.



左から 萩市野村市長、方丈ご母堂
難波ご住職、筆者

伊藤公改葬墓の右側中には博文公が
愛した「猿すべり」の手植えの樹が
大きく育っている。



松陰先生を憶う

伊藤博文



吉田松陰像

道徳文章経倫を叙ぶ
精忠大節明神を感じしむ
如今廓棟梁の器
多く是れ松門受業の人

「維新回天史」より

東行生誕一五〇年記念

「高杉晋作と奇兵隊」東行庵より以下の記事引用転載する。

長崎行 慶應元年（一八六五）三月（晋作二七歳）

(1) 英国留学希望

元治の内訌戦で正義派が勝利を収め、山口で新政府が発足すると、最大の功労者であり新政府の中心的地位につくことも可能であった。晋作は、新政府のポス



中央・高杉晋作（右・伊藤、左・三谷）
慶応元年3月から、藩の洋行の許可を得て、長崎におもむいたときに撮影したもの

トに何の未練も示さず、
年来の希望であったイ
ギリス留学を希望した。

晋作は、「およそ人とい
うものは艱難は共に
できるが、富貴は共に
できぬものだ」と言っ
ているように、生涯あ
まり地位に未練を示さ
なかった。

留学経験者である伊
藤を誘い藩府に願ひ出
た。藩も、この時期に突然外国留学は困ると慰留につ
とめるが、結局、横浜へ派遣するという名目でこれを
許可した。

晋作は、伊藤俊輔と共に長崎に出かけ、イギリス商
人グラバーに洋行の便を依頼した。しかし、グラバー
と長崎のイギリス領事ラウダの二人から、馬関開港を

新東洋行
支店
在

伊藤俊輔

高杉晋作

三谷三善

伊藤俊輔

高杉晋作

三谷三善



英学修業時情探索のため横浜差越沙汰書

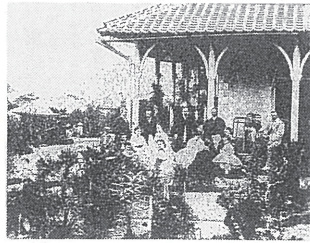
すめられ、その方が優先すると思いなおし、四月中旬下関に引き返したのである。

幕府を相手の戦いが避けられないとすれば、外国との貿易路の確保は是非必要であり、ことに武器の輸入は緊急を要した。問題は攘夷にこり固まった藩士や諸隊の隊士たちを説得して、藩の政策の急転換を行ない得るか否かにあった。

下関に帰ると、直ちに幕府に対し馬関開港のため、長府・清末藩の新天地と本藩の替地を協議した。高杉の馬関開港論と替地案はたちまち巷間に伝わり、攘夷派と二つの支藩士とを激昂させた。清末・長府の両藩では藩自体の存立への危機感が、攘夷の感情に重なり、晋作ら開港論者を切る暗殺団まで作られた。

井上聞多も高杉・伊藤の一味として再び斬奸の対象とされ、伊藤は対馬へ、井上は別府に脱れ、高杉は愛人おおうのをつれて大阪に逃れた。この後の四国亡命は次章にゆずる。

(2) オテントー号



グラバーとグラバー邸

イギリスの貿易商人トーマス・B・グラバー（1838—1911）は万延元年（1860）に来日し、長崎にグラバー商会を設立、幕府・諸藩に武器や軍需品を売り込む一方、薩長西南雄藩の留学生を援助するなど、幕末史の陰の演出者でもあった。グラバー邸は長崎港を見下ろすところにあり、オペラ「お蝶夫人」ゆかりの地とされ、木造の洋館と洋式庭園が残っている。

同年六月四国から下関に帰った晋作は、迫りくる対幕戦争に備えて、洋式武器の調達について協議を繰返す。

年末までの晋作は白石邸を基地にして、久し振りに奇兵隊士などとも酒をくみかわしている。白石正一郎

日記にも、晋作と芸者をあげて痛飲したという記事にぶつつかる。

戦死した奇兵隊士の霊をとむらうために桜山招魂場を建設することにも尽力している。

慶応二年（一八六六）四境戦争がはじまる年である。晋作は三月二日、再び伊藤と共に長崎に現われた。

理由は薩摩とイギリスの会談にオブザーバーとして参加したいというものであった。これは会談が中止となり実現せず再度、上海行を計画するが、グラバーの説得で再び中止した。

その間、幕府と長州の関係は緊迫の度を加え、馬関は戦場となる可能性が高まってきた。

長崎でこれを聞いた晋作は、グラバーの持船オテントー号（九四トン、鉄張）を約三万六千両（五万ドル）で独断購入し、水夫を長崎で雇入れて馬関にもどってきた。オテントー号には、四つの大砲が乗っていた。

海外に行くはずだった男が長崎で勝手に軍艦を買って帰るなどということは、ほかの藩では考えられない

事件である。井上聞多が山口の桂にとりなしを頼み、桂が藩主に直訴して事は不問に付せられた。

このオテントー号は「丙寅丸」と名づけられた。やがて、晋作は六月十日にこの丙寅丸に乗船を命じられ、海軍総督として大島口の戦いに参加することになる。

功山寺挙兵 元治元年（一八六四）二月一六日（晋作二六歳）

(1) 決起

筑紫（福岡県）から帰国した晋作は、奇兵隊総督赤根が俗論派政府と妥協し、諸隊解散令の撤回とひきかえに功山寺にとどまっている五卿の九州移転を認める動きに反対した。晋作は俗論派政府を武力追放し、正義派政権を樹立しようと奇兵隊以下諸隊を説得した。

山県小助（有朋）以下奇兵隊士やほとんどの諸隊は時期早尚と動かなかったが、当時力士隊を率いていた伊藤俊輔（博文）と遊撃隊総督石川小五郎（河瀬真孝）、参謀高橋熊太郎、所郁太郎、馬関に滞在中の佐世八十



高杉晋作挙兵騎馬像

晋作が藩論統一をめざし、功山寺で挙兵した姿を表したもの。



三条実美 (1837~91)

尊攘派公卿の代表的人物であり、明治時代には太政大臣となった。

文久2 (1862) 年秋、三条実美は、幕府に攘夷を督促する勅使として、江戸へ派遣された。幕府は、攘夷奉承を約束させられた。征夷大將軍が征夷ができないようであれば、幕府への政権委任を取消すとおどしをかけた。

郎 (前原一誠) が支持にまわった。
十二月十六日黎明、雪を踏んで功山寺に訪れた晋作以下決起軍は三条実美ら五卿に出陣の挨拶をし、馬関の新地会所を占領し、萩藩の俗論派政権に宣戦を布告したのである。

これが「功山寺挙兵」と呼ばれるもので、晋作の全生涯・全精神を賭けた壮烈な行動であった。

晋作の生涯をふり返って見ると、この決断こそが、一五〇年たった現在まで、彼を歴史的存在として記憶



晋作着用の兜・具足

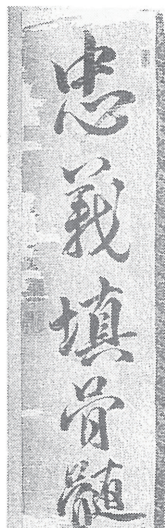
功山寺挙兵の際、晋作が身につけたもの。

晋作の死後、父小忠太が、かたみ分けとして山県有朋に与えたものである。



三条実美に出陣の挨拶をする晋作

晋作は功山寺挙兵に際して、同寺に潜居中の三条実美ら五卿に謁見し出陣の挨拶をした。「三条実美公履歴」(田中有美画)より



「忠義填骨髄」

功山寺挙兵の際、晋作が三条実美より与えられたと伝える旗。文字は、三条実美筆。出典は、蘇軾の「道理貫心肝、忠義填骨髄」に拠ったものと思われる。

晋作は、文久元年（1861）の8月桂小五郎（木戸孝允）にあてた書簡の中で「藤田東湖先生の忠義填骨髄の書幅をしばらく拝借願いたい」と記している。



功山寺（下関市長府）

京都政変によって都落ちし、長州に入った七卿のうち三条実美はじめ五卿が潜んだ寺である。

仏殿は国宝。門前に挙兵の記念碑が建てられている。



新地会所

晋作らが襲撃した新地会所（事務所の意）の図面。中央に御米蔵が描かれている。襲撃には約200人が加わったという。（「林家家内行事録」）

会所は萩藩が密航・密輸船などを取り締まるために設けたものだが、幕末になると北前船を対象とした馬関越荷方役所を設け、下関港経営に本腰を入れた。晋作もこの越荷方の用務を命じられた一時期がある。

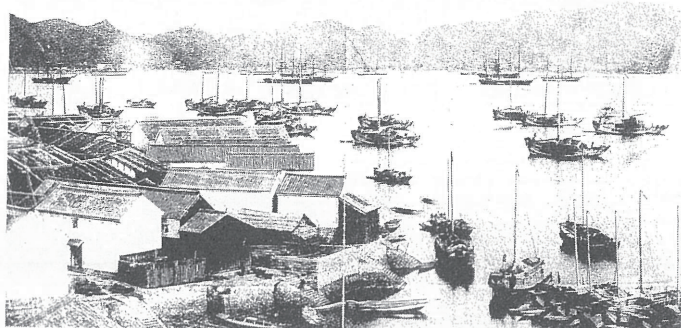
赤間関絵図

画面中央の入江の奥に新地会所（御役所）が描かれている。入江の右手が幕末の志士が訪れた白石家がある竹崎町。

この図は長府藩主毛利元周が台場候補地を巡検した模様を描いたもの。



馬関攘夷戦の四国艦隊砲撃位置図



下関港に入港した四国連合艦隊

さす最大の要因となったものである。

江戸時代、三〇〇年の歴史の中で藩内の政治闘争を

武力で解決したのは晋作ただ一人であった。

伊藤俊輔（博文）（一八四一—一九〇九）

伊藤博文は熊毛郡束荷の出身。幼名利助、のち俊輔、博文と改めた。

家貧しく、一二、三歳ごろ若党奉公をした。

一四歳の時、伊藤姓を名乗る。安政三年藩命により相州浦賀警備に出役の折、来原良蔵に見出され、その紹介で松下村塾に学び、ついで長崎で洋式操練を学んだ。同六年桂小五郎（木戸孝允）に従って攘夷運動に参加し文久二年一二年品川御殿山英国公使館焼打にも加わった。同三年三月士分に列せられてのち、井上馨と共に渡英した。以後開国・富国強兵論に転じ、四国艦隊下関砲撃事件を知って翌年六月急ぎ帰国し、列国との講和を工作した。この間攘夷派に狙われ、幾度か危難に遭遇した。以後討幕運動に従い、第一次征長戦後、俗論

派が長州藩要路を制した際、晋作を援けてこれを一掃し、第二次征長戦の際は、長崎との間を往来して汽船・兵器の購入に尽力するとともに、薩長連合の成立に尽力した。

晋作と共に、死線を何度もくぐり、井上と共に一番晋作に近い所にいた人物である。不思議なことに、晋



当時の伊藤博文

瓦版「長門の国大火」

記事によると、小倉の旅人の話をもとにしている。実際よりは、かなり誇張されており、「死者、けが人数しれず」は事実と異なる。この種の誇張は、当時の瓦版につきものであった。



作の伊藤あて書簡は一通も残されていない。

攘夷決行

文久三年（一八六三）五月一〇日（晋作二五歳）

文久三年（一八六三）五月一〇日、下関海峡を通航中のアメリカ船ペンブローグ号（二〇〇トン）への砲撃により長州藩の攘夷戦はじまった。

表のとおり五月中に、フランス・オランダ軍艦を砲撃したが、六月一日、アメリカ軍艦ワイオミング号が先の砲撃の報復のため、下関を砲撃し、長州藩軍艦三隻を撃沈した。

六月五日にはフランス軍艦二隻が前田砲台を占拠し、砲台を破壊した。

わずか二隻の軍艦の艦砲射撃に対して、長州藩兵は何の抵抗もできないまま、砲台まで占拠されるといふ、兵器の弱体ぶりをさらす危機に見舞われた。この危機打開のために藩庁が起用したのが晋作であった。

四月十日以来、萩城外の松本村に隠れ住んで、思索と読書の生活を送っていた晋作が、山口の政事堂に呼び出されたのは、攘夷戦の敗北が決定的になった六月五日のことである。

第一次 文久3年 5月10日	アメリカ船ペンブローグ号一部破損（軍艦の砲撃） 庚申号より砲撃、陸地の砲台も砲撃（玄瑞らの守備兵）
第二次 5月23日	フランス軍艦キンシャン号も一部被弾。 庚申・癸亥号より砲撃、砲台の砲撃
第三次 5月26日	オランダ軍艦メジュサ号は被弾する。 庚申・癸亥・壬戌号の砲撃、砲台の砲撃
第四次 6月1日	アメリカ軍艦ワイオミング号の砲撃 庚申・癸亥・壬戌号は砲撃するも被弾し沈没。人家の被害あり
第五次 6月5日	フランス軍艦セミラミス号・タンクレード号の砲撃、兵員上陸、砲台占領

長州藩の砲台

彦島2、赤間関4、壇の浦2、前田2、豊浦2
大砲57門、野砲数10門
砲兵500人、歩兵2,500人

長門沿岸を警備する軍艦

庚申丸（日本製）30斤砲（6）
癸亥丸（イギリス製）18斤砲（2）9斤砲（8）
壬戌丸（イギリス製）小砲（2）

晋作は藩主の要請で、馬関の防衛を早急に建てなおすよう一任されたのである。

列強の外圧に対して、支配層である武士の無力さがさらされたこの事件は長州藩のみでなく、日本の危機でもあった。

馬関防衛には、馬関総奉行のもとに大組士ははじめとする数百人の藩兵が派遣されていたが、攘夷戦で果敢に戦ったのは、玄瑞の率いる浪士隊（下関の光明寺に本陣をおいたので光明寺党と呼ばれていた）だけであった。

その光明寺党も、六月一日、アメリカ軍艦ワイオミング号の砲撃を受けた日に、急拠京都の尊攘派勢力挽回のため上京していった。

晋作が、考え続けてきた富国強兵策を実施しなければならぬ条件がととのいはじめていたのである。



長州藩のイギリス留学

長州藩は下関攘夷戦に直面しながら、日本の開国を必至として、あらかじめ、これに備えて広く海外から事情を研究するため、文久3年（1863）5月12日ひそかに井上聞多（馨）・伊藤俊輔（博文）・野村弥吉（井上勝）・遠藤謹助・山尾庸三の5人をイギリスに留学させた。5人は、横浜のイギリスのジャージー・マジソン商会の斡旋で、本国におもむく便船に乗って横浜を出港、上海でホワイトアダー号とベガサス号に分かれて乗りかえ、4か月と10日かけてロンドンに着いた。写真は右から伊藤、山尾、井上勝、遠藤、井上馨。

（この留学費用を調達したのが大村益次郎であった・筆者注）

フランス艦の報復

文久三年（一八六三）五月十日の長州藩の外国船攻撃（攘夷実行）に対し、ジョレス提督のひきいるフランス艦隊は前田砲台を攻撃し、上陸作戦を行なった。
写真（上）は、米・仏連合軍の攻撃（中）はフランス軍の上陸作戦をフランス人、ルサンが画いたもの。



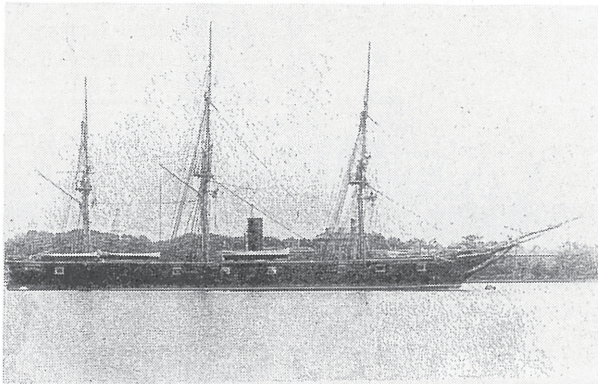
ワイオミング号

ワイオミング号は米国の軍艦で、文久3年6月1日、関門海峡にきた。目的は、5月10日、米国の商船ペンブローグ号が、海峡での第一次攘夷戦の対象として砲撃されたのに対する報復のためであつた。

ワイオミング号との戦いの状況は、米国側の発表によれば、交戦時間は1時間10分、米艦の発射数55弾、被弾は20余、4人死亡、重傷2人、軽傷2人。

長州側は、庚申丸が撃沈、壬戌丸が沈没、癸亥丸は再起も困難なほどの損傷をうけた。

この敗戦と6月5日のフランス軍艦2隻による完敗が、晋作を下関に登場させ、奇兵隊を結成させるきっかけとなった。



高杉東行碑銘文

「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し」の名文句はこの顕彰碑の冒頭に掲げられたものである。碑文の篆額は毛利元昭、文字は杉孫七郎の筆。一二〇〇字に及ぶ撰文は晋作と死線を共にした伊藤博文の力作で、晋作の生涯と功績が簡潔にまとめられている。

撰文の完成は明治四二年（一九〇九）年九月。翌月、伊藤はハルビン駅頭で凶弾に倒れた。一方、完成を心待ちにしていた梅処尼も同年八月に急逝。両者とも碑文の完成を見ることなく亡くなった。

『高杉東行碑銘文』

動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し、衆目駭然として敢て正視するもの莫し。これ、我が東行高杉君に非ずや。

君は諱を春風、字を暢夫、通称を晋作、後姓名を変えて谷潜蔵と曰う。東行はその号なり。系は武田小左

衛門春時に出づ、春時は天文備後、高杉城主たり、因つて氏たり。子孫は世々毛利氏に仕う、孝の諱は春樹、妣は大西氏。

天保一〇年八月二〇日を以て長門萩に生る、幼にして倜儻大志あり、眼光は炯炯として才識人に絶す、はじめ藩学明倫館に入り年十九にして吉田松陰に師事、松陰は深くこれを偉として久坂実甫と並び称す、ついで東游して昌平黌に入り、また佐久間象山を信濃に訪い、横井小楠を越前に訪う、学識倍進む、文久元年藩公朝廷と幕府との間を周旋す、ときに君は世子の近侍たり、周旋のことをおもうに藩国に利非ず、すなわち将になすあらんとす、二年公君をして上海に游んで海外の事情を探らしめんとす、居ること数カ月にして還る。即ち世子は勅を奉じて江戸にあり、周旋すこぶる力む、君当路にその不可なるを以て説く、聴かれず、君憂憤し、一日切に世子を諫め、直に藩邸を脱す、すでにして勅使三條中納言、姉小路少将江戸に至り、幕府に攘夷の勅を奉ぜしむ。幕議違に依つて決せず、君、

同志と謀り、まさに外人を襲殺して以つて事端を啓かんとす。世子論にしてこれを止む。君等遂に御殿山外館に火す、世子君を京都に召す、故あり、髪を薙つて東行と号す。

三年春、車駕賀茂神社に詣ず、將軍家茂列候を率いて扈從す、すでにして、將軍まさに遽に東帰せんとす、君謂う、將軍、一たび拳趾すれば、すなわち大事去る。すなわち同志と鷹司閑白に謁し、その不可に陳ぶ。朝議これを納る。未だ幾もならず、国に還り、屏居して出でず、六月藩公勅を奉じて外艦を馬関に撃つや、君を起て防禦の事を任す。君士民勇壯者を募り、奇兵隊を編す、八月朝議にわかに變じ、三條中納言等の官を褫い、藩公父子の入京を停む、士民憤慨す、游擊軍総督来島又兵衛、まさに兵を率いて闕下に詣らんとす、君公命を衛みてこれを諭す、聴かず、君深くこれを慨き、即日亡命し入京す、藩、その罪を論じて獄に下す、元治元年八月英仏米蘭四国艦隊を連ね、公また君を起て政務に參ぜしむ、我が軍利あらず、すなわち君を以

て媾和の使となし、上戦媾和の約を訂ぶ、余等また參ず。これより先、士民冤を京師に訴え、皆省みず、ついに禁門の変あり、幕府、問罪の師を興し、我が国境に逼る。藩士俗論を唱うるもの争いて起り、公を萩に擁し、政柄を掌握して、専ら恭順を主とし、正党は皆罪を蒙る、君慨然として、国論を回復するの志あり、機を見て遁れ、山口に潜入す、捕使追躡す。すなわち航海して筑前に走る、奇兵諸隊しばしば上書して事を論ずれど、納れられず。俗党ついに三老臣四參謀を斬つて、幕府に謝罪す。君は事の急なるを聞き、また長府に帰り、まさに諸隊を率い、俗党を討たんとす。隊士等以つて時機尚早となし、未だことごとく応ぜず、君、余等と謀り、わずか二隊の兵を以つて發し、急に馬関伊崎の官廨を囲み、姦吏を逐う。その翌、諸隊また陣を伊佐に進む。俗党驚駭し、また正士七人を殺す。君大いに怒り、兵を進め伊崎官廨を襲うてこれを據り、討姦檄を国内に云う。実に慶応元年正月二日なり。こ

こにおいて俗党兵を發し諸隊を撃つ、諸隊、絵堂大田

に邀^{むか}え戦う。皆捷^かつ。君往きてこれに会い、赤村の敵を夜襲し、これを破る。転じて山口に入り、三道に兵を分けて萩に向う。藩士俗党に興^{くみ}せざるもの、上書して当路^{しりぞ}を黜^{しりぞ}け、国難を靖んぜんことを請う。公これを納^いれ、諸隊に告諭す、諸隊命を聴き、藩始めて一に帰す。

君は諸隊を部署して、以つて東兵に備え、しこうしてまさに余を伴い歐洲に遊び、その形勢を察せんとするも、事を以つて果さず。五月、土佐の坂本龍馬、馬関に來り、桂小五郎に見^{まみ}え、薩長連合の事を説く、君余等とその議に賛し、かつ曰く、今、東軍まさに大挙來攻せんとす、よろしく、我艦^{がかん}利器を外国に購^{あがな}い、以つてこれに備う。しかれどもその事、薩藩名を借るにあらずればすなわち能わざるなり、

余、井上聞多と長崎^{いた}に抵り、薩の老臣小松帶刀と謀り、銃艦を購入す。桂、また命を奉じて京に入り、西郷吉之助等と協議し、薩長連合すなわち成る。

二年春、君、余と長崎に赴き、尋いでまさに歐洲へ

航せんとす。未だ発せざるに、たまたま幕府の使、小笠原壱岐守日を刻して公父子を広島に召す。君、これを聞いておもえらく戦期すでに近し、急ぎ軍艦一隻を購いて帰る。丙寅艦これなり。

六月、東軍大島郡を襲う、君、丙寅艦に乗り、夜敵艦駢^{へい}列の中に突入し、礮^{はう}を放して去る。敵軍震駭^{しんがい}す、我が兵また海を渡り、陸上の敵を撃ち、これを走らしむ。

君、尋いで軍を豊前に進め、門司大里を取る。敵、小倉城に火し、退いて香春に入る、竟^{つい}に降を請う。しこうして、芸石の東軍またすでに我の破るところとなる。四境の外、また敵騎を見ざるなり。ここにおいて幕威、地に墮ち、王政復古の業まさに緒をつかんとす。三年春、君、偶^{なまなまやまい}疾を獲、四月一四日ついに起たず。春秋二十有九にして闔^とず。藩の士民、悼惜^{とうせき}せざるなし、吉田村清水山に葬る。

配は井上氏、一男あり、名は東一、その祀を承^うく。明治二十四年、朝廷その功を追褒^{ついはう}し、正四位を贈る。

嗚呼、君歿するの翌年、聖上登極し、乾坤一新す。

しこうして、君、目に中興の聖業を觀るをえず。身に昭代の霑澤に霑能わず、悲しいかな。

今、ここに某月、君の故舊相謀り、墓側に石を建て、以て之を朽せず、余に属して文をなさしむ。諱辭すべからず。すなわち、その行実を書して、概略かくの如し。

明治四十二年九月

正二位大勲位公爵 伊藤博文 撰

以上「高杉晋作と奇兵隊」より転載



高杉東行顕彰碑（東行庵）

さて今回顕現した伊藤博文公の改葬になる萩報恩寺境内の公自ら筆をとった墓石や墓域の修復と博文公のさらなる顕彰事業が始まろうとしている。このことは今回の新発見によって伊藤家ご当主博雅様や千家達彦様ご夫妻のご希望とご了解されたところであります。趣旨に賛同される皆様より寄金を募ることになりました。報恩寺ご住職をはじめ、萩市長の陰のご支援によって事業委員会が発足する予定です。

山口の幕末維新史に新しい知見が得られたので速報としてお知らせする次第です。

【参考・引用文献】

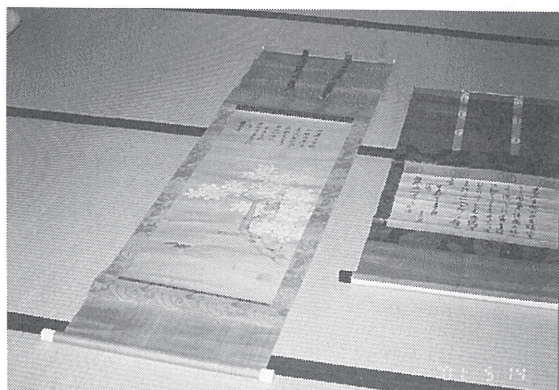
「萩市教育委員会」発行刷子

「維新回天史」 野村春畝著

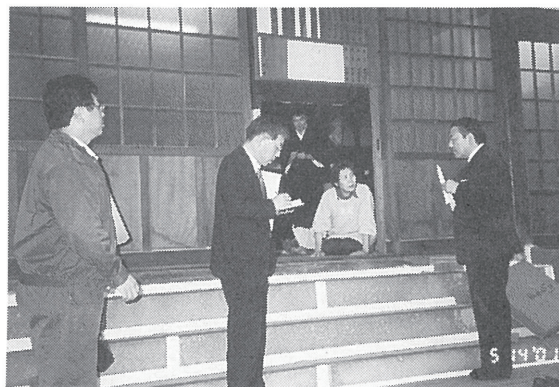
「高杉晋作と奇兵隊」 東行庵

「高杉晋作の29年」 一坂太郎著 新人物往来社

奇数代の萩藩公歴代の
菩提寺「東光寺」住職
から「報恩寺」方丈へ
贈られた軸二点。



香華の手向けられた伊藤家の「御瑩墓」



報恩寺の方丈様から伊藤公
に関する事蹟を詳しく聞か
れる野村興兒萩市長と教育
委員会の方々。

